



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和6年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 3
R6. 5. 29

自転車の両輪のように (コミスク)

坂を上る1年生の足取りもだんだんたくましくなってきました。あきよ山では鳥の美しい歌が聞こえます。

さて、コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を5月22日(水)に開催しました。学校と地域が目指す子どもの姿を共有し、協働していくことが求められています。学校運営協議会では、学校の教育目標の「明るく たくましい 明世の子」を基にして、コミスクとして目指す子どもの姿と合言葉を、次のように設定しました。

あかるく たくましい あきよの子
あいさつ きれい よくあそぶ

この目指す姿を、学校と校区の大人が一体となって、つくっていくことを確認しました。地域にある「地域学校協働活動委員会」(明世地区まちづくり)を中心に、連携・協働していきます。協議会では、今の子どもたちの姿や地域の姿について、次のような意見が出ました。

- (1) 分団で登校するとき、6年生が1年生を、励ましたり支えたりしながら連れて行ってくれる。下校時は、1・2年生だけの時が心配だから、コミスクの「安全・環境活動」として、見守りをお願いし、付き添ってもらった。地域の人が下校時間帯に外に出て、犬の散歩や花の水やりをしながらでも、子どもたちに「おかえり」と声をかけることに意味がある。
- (2) 学校では、大きな声であいさつができていたようだ。児童会活動に「あいさつ」があるから、地域でも、元気にあいさつができるようになるとういのではないか。
- (3) 子どもたちの学習や活動を支える地域の講師やボランティアについて、持続できるようにしていきたい。

(1) の下校の見守りは、協働活動になりつつあるといえそうです。付き添ったり、交差点まで出迎えたりしてくださっています。さらに多くの地域の方が、下校時に散歩したり作業をしたりしながら子どもを見てくださると安心です。

(2) のあいさつは、子どもが地域の中でも安心してあいさつができるように、地域の方の協働が必要だと考えます。あいさつはキャッチボールにたとえられます。一方がボールを(あいさつ)投げる。相手がボールを投げ返す。繰り返すうちに、キャッチボールが上手になる。強めのボール(大きな声)を交わすことができるようになる。変化球も受け止められるようになるかも。

子どもが安心して、ボールを投げられるように、まず大人が優しいボールを投げたり、大きく構えて受け止める姿を見せたりすることが必要かもしれません。よろしくお願ひします。

(3) について、コミスクとして、「学習・地域活動」と「安全・環境活動」を行っています。(裏面の行事予定★印) 地域の文化の話や、読み聞かせ、草取り、見守り等の活動です。見学したい活動・参加できそうな活動があったら、学校や学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員(小栗丈人さん)にお声がけください。

子どもたちは、地域の人との触れ合いを通して、地域の方の思いを知り、感謝し、次の世代に受け継ごう、地域や人を大切にしようという思いが育っていくと思います。「あかるく たくましい あきよの子」は、地域の中で育っていくといえます。

明世小学校区では、明世地区まちづくり推進協議会の地域学校協働活動委員会(旧青少年育成委員会)を中心に、校区の住人みんなが子どもたちの育成に参加していく体制がつけられつつあります。学校と地域、学校運営協議会と地域学校協働委員会は、自転車の両輪のように一体となって、目指す姿(子ども・地域の姿)に向かって進み始めています。